

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0972300479		
法人名	医療法人水木会		
事業所名	グループホーム八州苑		
所在地	栃木県下都賀郡藤岡町太田1386-1 (電話) 0282-61-1181		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年12月8日	評価確定日	平成22年1月14日

【情報提供票より】(平成21年11月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤8人、非常勤1人、常勤換算8.75人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階部分		
------	-------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000円	その他の経費(月額)	・理美容代—2,000円 ・日用消耗品—150円/1日 ・光熱費—350円/1日 ・おむつ代—150円/1枚 ・教養娯楽費—100円/1日 ・電気代—50円/1日/1点
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,380円		

(4) 利用者の概要(平成21年11月19日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2		5名	
要介護3	2名	要介護4		名	
要介護5	名	要支援2		名	
年齢	平均 88.7歳	最低	79歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小松原医院、石川歯科医院		
---------	--------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは、平成12年に県内で2番目のグループホームとして開設されたホームである。ホーム周辺には田畑や雑木林が広がり季節感を感じられる静かな環境に位置している他、道路を挟んだ向かい側には同法人の介護老人保健施設と2ユニットのグループホーム、隣町にも2ユニットのグループホームを有しており、職員間での勉強会や入居者の相互訪問を行う等、ホーム間での連携や質の向上にも努めている。ホームでは、開設当初より5つの理念を掲げ、人間性を重視し一人ひとりを大切にしたい家庭的で穏やかな安心感のあるケアを目指している他、3つの行動指針「ゆっくり・たのしく・いっしょに」により、入居者が日課に縛られることなく、本人の意志を尊重した生活支援が行われている。入居者は食事の準備や後片付け時の役割も自然に行っており、職員は入居者から調理方法や植物や農作物の栽培方法等で学ぶことも多い。また、同法人では、職員が長く勤められるよう、施設内保育所も併設されている。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者及び職員は評価の意義を理解しており、日々の支援の気付きや振り返りの機会として捉えている。評価結果については定例会議等で報告されており、改善を期待された事項等については検討を重ね、入居者の安全等にも考慮しながら改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は全職員で取り組み、管理者がまとめあげた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回、入居者、民生委員、町職員、地域包括支援センター職員、管理者等がメンバーとなり開催している。近隣で不審者の出没が相次いだことから、駐在所の警察官に次回から参加してもらう予定をしている。会議では、ホームからの運営状況等の報告や入居者からもホームでの暮らしぶりや過去の生活についての話が出される等、参加者から意見や助言を出してもらっており、会議の結果については定例会で報告をしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情受付担当者及び町の担当課が記載されている他、ホーム玄関には苦情受付担当者が掲示してある。ホームの受付窓口には意見箱が設置されているが、今まで意見や要望が寄せられた事はない。家族へは定期的なアンケートの実施や行事や面会時を通じて日常的に意見や要望等を表しやすい関係づくりに努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム周辺は田畑や林、工場等であり、近隣の住民宅は離れていることから地域との交流はあまり多くはないが、近隣にある同法人の4つのグループホーム間を入居者が相互訪問するなどの交流を行っている。また、道路を挟んだ場所にある同法人の介護老人保健施設で行われている納涼祭には地域から多数の参加がある他、地域の小学校での運動会に招待される等、地域との相互交流には積極的に取り組んでいる。自治会には法人として加入している。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者のホームでの暮らしを主体的に捉え、支援していくことを目標としたホーム独自の5つの理念をつくりあげている。また、3つの行動指針「ゆっくり、たのしく、いっしょに」もつくりあげており、入居者が地域の中でその人らしく暮らして行けるよう支援に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や行動指針はホーム内の居間等に掲示されている他、パンフレットにも掲載がされている。また、入居者に接する際の心得を記載した「介護十戒」や「介護十則」も掲示している。理念や指針等は朝夕の申送り時や毎月のスタッフミーティングの際に唱和を行い、職員間で理念の共有を図っており、常に理念を念頭においた実践がなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺は田畑や林、工場等であり、近隣の住民宅は離れていることから地域との交流はあまり多くはないが、近隣にある同法人の4つのグループホーム間を入居者が相互訪問するなどの交流を行っている。また、道路を挟んだ場所にある同法人の介護老人保健施設で行われている納涼祭には地域から多数の参加がある他、地域の小学校での運動会に招待される等、地域との相互交流には積極的に取り組んでいる。自治会には法人として加入している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は全職員で取り組み、管理者がまとめあげた。管理者及び職員は評価の意義を理解しており、日々の支援の気付きや振り返りの機会として捉えている。評価結果については定例会議等で報告されており、改善を期待された事項等については検討を重ね、入居者の安全等にも考慮しながら改善に向けて取り組んでいる。	○	評価結果については定例会等で報告され、課題の共有化は図られているが、今後は職員全員での検討を重ね、さらに具体的な改善に結びつくような取り組みに期待したい。

グループホーム八州苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、入居者、民生委員、町職員、地域包括支援センター職員、管理者等がメンバーとなり開催している。近隣で不審者の出没が相次いだことから、駐在所の警察官に次回から参加してもらう予定もしている。会議では、ホームからの運営状況等の報告や入居者からもホームでの暮らしぶりや過去の生活についての話が出される等、参加者から意見や助言を出してもらっており、会議の結果については定例会で報告をしている。	○	運営推進会議がマンネリしたものにならないよう、議題や構成メンバー等の再検討を行う他、入居者家族も参加できるような開催日時の検討も行き、参加委員からの助言や意見がサービスの向上に役立つよう、運営推進会議がさらに充実したものになるような取り組みに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町内のグループホームは同法人の3ユニットだけであり、町担当職員との連携は図られている。グループホーム総括のケアマネジャーが町の地域包括支援センター職員として2年間出向していたこともあり、町の所管課との意思の疎通はより図られるようになっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への入居者の暮らしぶり等の報告は、家族の来所時に随時報告を行っている。ホームでは入居者の担当制を取っており、担当職員が家族に毎月、健康状態や生活状況等を写真を添えた手紙で報告している他、2ヶ月に1回発行している広報誌でも、ホームでの行事や暮らしぶり、職員の異動等を家族に報告をしている。預かり金等の金銭は出納帳で管理し、定期的に家族に確認をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付担当者及び町の担当課が記載されている他、ホーム玄関には苦情受付担当者が掲示してある。ホームの受付窓口には意見箱が設置されているが、今まで意見や要望が寄せられた事はない。家族へは定期的なアンケートの実施や行事や面会時を通じて日常的に意見や要望等を表しやすい関係づくりに努めている。	○	ホームでは、家族からの意見や要望等を把握することに努めているが、今後は重要事項説明書に国民健康保険団体連合会や運営適正化委員会等の外部の苦情受付機関を掲載し、さらに家族が意見や要望等を表わせる機会づくりが図られることに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の離職は少ない状況にあり、定期的な法人の内部異動はあるが、職員の適性や希望等を考慮したうえで、馴染みの関係が継続できるように異動は最小限に留めている。異動する場合には職員間での引き継ぎや入居者への説明や送別会を行う等、影響が無いよう配慮をしている。職員は異動後も法人の行事やホームへの訪問等で顔を合わせる機会があり、入居者との馴染みの関係の継続が図られている。		

グループホーム八州苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者及び管理者は職員の育成に力を入れており、定期的に開催される法人の内部研修にできるかぎり職員を参加させている他、課題を決めてレポートの提出等も行っている。外部研修への参加については、職員の勤務年数や職種等を考慮して全職員が順番に受講できるように研修計画を作成しており、研修会へ参加した職員はミーティング等で研修内容の伝達を行い知識の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会には加入しているが、町内には当ホームと同法人2箇所のグループホームだけであり、他法人事業所との交流はほとんど行われていない。また、同法人では隣接町内にも2箇所のグループホームがあり、職員間での情報交換や勉強会、入居者も含めた相互訪問や行事等での交流は定期的に行われている。	○	当ホームも含めた同法人5箇所のグループホーム間での交流は盛んであるが、同法人内の交流だけでなく、近隣市町の他法人事業所へ培われた実績等の情報提供や職員間での相互訪問等の交流を実施し、更にサービスの質を向上させていく取り組みに期待したい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しての見学は随時受け入れており、ホームの建物や入居者の生活ぶり等を見学してもらっている。必要があれば、管理者が家庭訪問を行い、本人や家族の意向を聞き取ると共にホームでの生活についての説明も行い、入居にあたって本人の不安を軽減するよう配慮がなされている。入居当初は、声かけを多くする等、早くホームの生活に馴染めるように努めている。	○	入居の相談から入居に至るまでには、家族と管理者間での話合いや事務処理が多くなることは否めないが、家族に協力を依頼し、本人にできるかぎり日中ホームに来てもらう等、ホームの雰囲気や職員及び他の入居者と馴染みの関係をつくり、本人も納得した上で入居できるような取り組みに期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人ひとりには、出来る範囲での役割があり、食事の準備や後片付け、ふきんをたたむ等、自然に役割をこなしている姿が見られた。また、裁縫や生け花等、入居者の趣味や特技が生活の場にも活かされており、活かした花が食卓を飾る等の配慮がなされている。職員もうどん作りや家庭菜園等を通じて入居者から色々な事を学んでおり、共に支え合う関係を築いている。		

グループホーム八州苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用して、入居者の生活歴やホームでの生活状況等の把握に努めており、本人の希望や意向、趣味嗜好の把握に努めている。食事の希望を聞いて料理を作ったり、レクリエーションへの参加もその都度本人の希望を確認している。飲酒や喫煙についても健康や安全に配慮しながら希望者には提供を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者及び介護支援専門員が本人や家族からのアセスメントを行い、サービス担当者会議において職員の意見や医師等の助言も参考にして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度定期的にケースカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。日常のケアの中でも状況が変わればその都度見直しが行われている。見直しに当たっては、モニタリング記録表、モニタリングチャート等を用いて、入居者や家族からの確認や満足度を記入してもらう等、入居者や家族の意見も参考に状況に即した介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接した同法人の介護老人保健施設のリハビリ設備をホーム職員の付き添いで利用したり、理学療法士から入居者の体型の変化に伴う支援方法の助言をもらう等、法人及び事業所の多機能性を活かした支援に努めている。納涼祭や月毎の誕生会やレクリエーション等も介護老人保健施設や併設ディサービスと一緒に実施している。		

グループホーム八州苑


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は2週間に1回、職員の付添いにより協力医療機関にて受診する事が出来る体制になっている。協力医療機関以外のかかりつけ医で受診する場合は家族に付き添いをお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは今までに看取りの事例は無いが、「看取りの指針」を作成し、重度化や終末期に備えており、職員間での共有も図られている。入居者が重度化した場合等には、本人や家族の意向の確認を行う他、母体法人でもある協力医療機関や介護老人保健施設等との連携が取りやすい環境にある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には入居者の生活体験や人生経験から学ぼうとする姿が見られ、入居者の気持ちを配慮した丁寧な言葉掛けが行われている。「介護十戒」や「介護十則」がホーム内に掲示されており、入居者への接し方や日々の支援方法の姿勢を示しており、職員間でも不適切なものがあつた場合にはその都度注意をしている。記録等の個人情報は決められた場所に保管され管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、日課表の掲示もなく入居者一人ひとりのペースを大切にしながらの生活が行われている。レクリエーションや入浴等、全てにおいて本人の希望を確認したうえで、本人の意思を尊重しながら生活を支援している。		

グループホーム八州苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士が2週間分の献立を立てているが、近所から野菜の差入れがあった場合や入居者の希望等により、献立を変更することもある。食材はホーム毎に発注し、ホームの台所で職員が調理を行い、検食を兼ねて職員一名が入居者と同じものを食べている。食事時はテレビを消し、音楽を流して落ち着いた雰囲気の中で食事をしており、食事の準備や後片付けも入居者が職員と共に行っていた。	○	職員の勤務時間や休憩時間の問題もあると思われるが、ホームの理念「家庭的な雰囲気」や行動指針「いっしょに」にもあるように、職員が入居者と共に同じ食事が出来るよう検討していくことを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日、午後の時間帯で行われているが、順番や入浴時間は決まっておらず、入居者から入浴の希望を聞き、職員の支援により入浴が実施されている。特に同性介助は実施していないが、希望があれば対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、タオルたたみやモップ掛けなど、入居者一人ひとりにあった役割があり、入居者がごく自然に役割を担っている姿が見受けられた。趣味も裁縫や生け花など入居者がやりたいことや得意なことを職員と一緒に楽しんでいる。レクリエーションなども強制でなく希望者のみで実施されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回、ドライブや外出に出掛けている。行き先については入居者から希望を取って決めている。天気の良い日には職員が付き添って散歩や法人の菜園にも出掛けている。買い物にも希望する入居者と出掛けるなど、外出する機会を多く作っている。入居者からも「ドライブを楽しみにしている」との声が聞かれた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは幹線道路に面している他、近隣での不審者の出没もあり、入居者の安全上の問題や建物の構造上の問題から家族の同意を得たうえで玄関には施錠をしている。外出の機会を増やしたり、屋外で過ごす機会を増やす等に対応している。鍵を掛けないケアの取り組みについては職員間でも検討を重ねているが根本的な解決には至っていない。	○	施錠に関しては、家族の了解を得たり外出の機会を多くするなどの努力は認められるが、安全対策や職員の見守りの方法の構築等、今後も鍵を掛けないケアの可能性について更なる検討を期待したい。

グループホーム八州苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法をも身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3ヶ月に1回、通報訓練、消火訓練、避難訓練等の防災訓練を消防署員の立ち会い等により実施している他、夜間時を想定した訓練も実施している。立地条件から地域住民の協力は得られにくいですが、隣接している同法人の介護老人保健施設や5箇所のグループホーム間での協力体制もできており、非常時の連絡体制が作られている。防災計画や水害時の対策マニュアルも策定されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の管理栄養士が1日1600キロカロリーを目安に栄養バランスに配慮したものを作成している。食事摂取量は毎食後に確認しており、個別に摂取量を記録している。水分補給は食事時や入浴後のお茶や牛乳等による水分補給の他、10時と15時のお茶の時間には数種類の中から好みの物が飲めるようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの周りを居室が囲んでいるため窓がないが、天窓からの採光や各居室の窓からは外の林等が望め、明るさや空調なども適度にたもたれており閉塞感を感じられない。共用部分には家庭的な落ち着いた調度品が設備されており、生け花等の入居者の作品や行事等で撮影された入居者の写真が飾られており、ゆったりとした生活感が感じられた。玄関ホールは採光も良く、入居者がプランターで草花の栽培をしたり、日向ぼっこ等を楽しむ場として利用されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者が自宅などで使い慣れたものを持ち込めるよう配慮しており、入居者各々が衣装箆笥、テレビや椅子等を持ち込んでいる。居室は全て洋室であるが、畳を持ち込んで利用している入居者もあり、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫や配慮が見られた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。